

モデル河川における溪流魚の系群保全実証試験について（案）

A．事業全体の概要

1．経緯及び現状

田子町では産業廃棄物処理への期待はあるものの、廃棄物によって引き起こされる土壌、地下水、河川等への汚染に対して強い不安を抱いている。

廃棄物が投棄された場所の北側を流れる熊原川は、エゾイワナ、アユ等の生息河川として地元住民等から親しまれているほか、青森県レッドデータブックで最重要希少種（A ランク）に位置付けられているハナカジカの生息域としても知られ、河川環境の維持保全が望まれている貴重な河川である。

2．課題及び目標

産業廃棄物の影響に対する不安を払拭し、安心感を醸成する。

貴重な生態系の保全を図る。

3．事務事業の概要

魚類生息状況等調査

生物的モニタリングとして、魚類生息状況等の調査を実施する。

イワナ種苗生産

熊原川在来のエゾイワナ親魚を採捕して種苗生産を行い、その種苗を放流する。

イワナ種苗放流による増殖効果の検証

種苗放流による増殖効果を検証する。

4．事業実施期間 平成 16 ～ 17 年度

B . 魚類生息状況等調査の概要

1 . 調査実施予定時期及び回数 夏季 1 回及び秋季 1 回

2 . 調査実施予定場所

熊原川の 3 地点

St.1 杉倉川合流部の下流

St.2 杉倉川合流部

St.3 杉倉川合流部の上流

3 . 調査内容

投網等を用いて魚類を採捕し、現地において麻酔処理後、種の同定、写真撮影、魚体測定（全長）を行う。

種の同定が困難な場合等は、ホルマリン固定の上、サンプルを持帰り、精査する。

他の魚類については、麻酔回復後、現地で再放流する。

4 . その他

調査地点、漁法等については、地元漁協の助言も得る。

熊原川の生息魚類調査に関する既往文献の整理を行う。